



# 東京歯科大学広報



平成26年仕事始めの挨拶をする金子 譲理事長と井出吉信学長：  
平成26年1月6日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

## 甲午（きのえうま）

平成26年1月

2013年12月

2014年 1月

# 264号

### 本号の主な内容

・金子 譲理事長年頭の挨拶 .....	2
・井出吉信学長年頭の挨拶 .....	3
・市川総合病院 研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会開催 .....	4
・平成25年仕事納め .....	6
・平成26年仕事始め .....	6
・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 4大学合同事業 公開講座 「口腔がん治療の均てん化・標準化」開催 .....	9
・2013年の回想&2014年の抱負 .....	20

## ■平成26年 金子 譲 理事長 年頭の挨拶

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

## 年頭にあたって

皆さん明けましておめでとうございます。

今年は現在千葉校舎で勉強している5年生が4月から水道橋に移りますので、3月いっぱい千葉校舎には学生がいなくなり、4月から全学年の学生が水道橋で勉強します。皆さんは非常に大きな変革の中で仕事をすることになります。皆さんには学長の指示に従うに当たり、その内容を良く理解し、大学での自分の役割をしっかりと果たしていただきたいと思います。

さて今年はサッカーワールドカップがあるということで、多分皆さんの中にはブラジルまで行こうと考えている人もいます。イタリアのACミランに移籍した本田選手のインタビューを聞いて、15年か20年くらい前の日本のサッカー界ではとても考えられない話であると思いました。しかし今の日本のサッカー界は本田選手を始め沢山の選手が海外の一流チームで戦うレベルになったのです。これは勿論ご存じのようにJリーグが出来た為であります。そこから若い選手の育成が始まり、今花が咲いている訳です。このことから分かるように、時間はかかりますが、大きな目標を持ってそこに進む事が必要だと思います。それを進めていくのは皆さんですので、是非それぞれが大きなビジョンを持ち、自分の育成も含めて大学の発展に努めてほしいと思います。

東京歯科大学の発展は歯科界の発展にも繋がります。国民の歯科医療に貢献ができる訳ですから、大いに教育・研究・診療に力を注いでください。

昨年は水道橋校舎新館竣工記念式典・祝賀会を行いました。実際の移転ではまだまだ色々な事が継続中です。このような状況で皆さんが力を結集して大いに飛躍をしていただきたいと思います。

毎年暮れには日本漢字能力検定協会がその年の漢字を決めますが、今年は午年ですから私の感じでは「躍」ですね。躍る、飛び跳ねるとか、躍起になるなど、色々な意味で大いに将来に希望を持ちながら、辛いことも乗り切ってください。

臨床系の話になりますが、教育病院だから赤字で当然だという考えは改め、やはり病院の収支を合わせていただきたいと思います。各病院の自主独立が東京歯科大学の発展に繋がります。これから先生方、特に臨床の各診療科の主任あるいは講座主任は、教育・研究・診療とこの3本柱の計画をたて、診療科、講座一丸となって計画遂行に向かってください。

今年も元気で1年過ごしていただきたいと思います。どうもありがとうございました。



## ■平成26年 井出吉信 学長 年頭の挨拶

東京歯科大学

学長 井出 吉信

## 新しい年を迎えて

明けましておめでとうございます。2014年の初めに今年の抱負を述べたいと思います。

昨年、千葉から水道橋への移転の一期が完了し、今年は、教育・研究・診療をさらに充実させるための二期工事に取りかかります。

教育においては、文教地区で多くの大学が点在する水道橋に戻って来たことを契機に、他大学との交流を深め、教育に関する種々の情報をキャッチすることにより、歯学教育について再度見直し、東京歯科大学にとって適切な手法を取り入れたいと考えております。近年、歯学教育の在り方が見直され、他大学においても教育改革が進められています。東京歯科大学が更に発展をするためには、歯科医学教育の在り方を再考する必要があります。数年前から統合型カリキュラムを取り入れ、さらに成績が振るわない学生には、特別な授業を行うなどの教育改革をおこなってきました。またこれからは、世界を見据えた歯学教育が必須となります。新たに新設された国際交流センターを通じて姉妹校に於ける学生教育交流を計画しております。

教育の場では、学生の質のみならず、教員の教育能力を高める必要があります。教務部と各講座の主任と緻密な連絡を取り合っ戴きたいと思ひます。教育は、その時どきのニーズに対応しなくてはならない部分と守るべき部分があると思ひます。その区別を見極めることも重要であると思ひます。

研究においては、新しい設備が整った研究室で、これまでの研究は勿論、社会が注目する最先端の研究も行い、新しい知見を見出していただきたく思ひます。さらに、研究結果を英文論文にし、世界に発信していただくことを願っております。一講座での研究も重要ですが、基礎講座と臨床講座が、さらに他大学および研究所との共同研究も推進していただきたく思ひます。

診療においては、高度な医療に対応した技術を磨くことは勿論ですが、技術を支えるための知識、患者さんの心を察する思い遣りが大切であると思ひます。多くの患者さんから「東京歯科大学病院で是非治療をお願いしたい」との声が聞こえて来ることを願っております。

またこれ等のことは、教員職員一体とならなければ、決して成し遂げられませぬし、同時に日頃より、後に続く立派な後継者の育成もお願いして年頭のご挨拶とさせて戴きます。



## 学内ニュース

### ■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが12月14日(土)午後2時より水道橋校舎本館13階で開催された。

受験生や保護者の方々に対し、本学の教育理念やカリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況、平成26年度入学試験の概要等について説明を行った。

また、今年度からの試みである入試科目のポイントでは数学と英語の一般入試問題の解説を行った。この試みは大変好評であり、今回も終了後のアンケートでは上位にあげられていた。

毎回異なる模擬授業では、衛生学講座 杉原直樹准教授による「むし歯と砂糖の話ーむし歯にならないためのお菓子の知識ー」と題した講演が行われた。授業内容は受験生にもわかりやすい内容で構成されており、参加者の方々は大変熱心に聞き入っていた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談、さいかち坂校舎と新館校舎、水道橋病院の見学が行われ、大盛況な入試ガイダンスとなった。



カリキュラムについて熱心に説明する菅沼雅文教務課長：平成25年12月14日(土)水道橋校舎本館第1講義室

### ■平成25年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年12月16日(月)午後5時30分より、水道橋校舎本館6階ミーティングルームと2階総合歯科診療室、読影室・学生ラボにおいて、平成25年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「感染予防に関する事項：手洗い実習」と題して、感染予防対策チーム委員会が日常におけ

る手洗い効果の再確認を目的に実習を行った。

実習に関する説明とDVDによる手洗い方法の確認をした後、実習を行った。蛍光ローションを塗布し、総合歯科診療室内で手を洗い、読影室・学生ラボへ移動し、設置されたブラックライトで洗い残しの状態を確認した。各自で洗い残した部分を、チェック用紙に記入した。

ライトに翳すと、爪と皮膚の境目や手首に、手洗いで落としきれなかった蛍光ローションが光り、注意深く洗ったつもりでいても、洗い残しがあり、自分が気を付けて洗うべき部分を各自確認できた。また、手掌や指の付け根も洗い残しが多い部分と言われている為、注意して手洗いをする必要がある。各自の正しい手洗い方法の実践により、当院での確実な感染予防に繋げていきたいと感じた。

また、12月19日(木)18時より、同様の内容で、同じ第7回水道橋病院研修会として実習が開催された。



手洗い実習中の光景：平成25年12月16日(月)、総合歯科診療室

### ■市川総合病院 研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会開催

平成25年12月19日(木)午後6時より「研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会」が市川総合病院講堂で開催された。小坂橋俊哉市川総合病院副院長(市川総合病院倫理委員会委員長)の司会で、西田次郎市川総合病院院長の開会挨拶で始まり、一戸達也副学長の「研究活動に係る不正行為の防止に関する規程の概要について」、小林友忠会計課長の「公的研究費の適正使用について」、石原和幸研究部長の「研究倫理指針につい

て]、小板橋俊哉副院長の「倫理委員会と利益相反委員会について」と大学から講師を2名お招きしての4講演となった。

昨今の研究不正問題を受けて、市川総合病院の医師、歯科医師、看護師、コメディカルを中心とした199名という多くの教職員が参加し、本学の委員会規程や研究倫理、研究費の適正利用、利益相反等について理解を深めることができた。参加者に対して、プレ・ポストテストの実施も行い、菅 貞郎市川総合病院副院長の挨拶で閉会した後も、会場内で様々な意見交換がなされ、今後の研究における不正行為の防止と適正な研究体制の強化に向けて、大変貴重な会となった。



説明する小板橋俊哉市川総合病院副院長（右）：平成25年12月19日（木）、市川総合病院講堂

### ■第128回歯科医学教育セミナー開催

平成25年12月25日（水）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第128回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「EBMと診療ガイドライン：これからの医療者に求められること」と題し、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野の中山健夫先生より説明がなされた。

はじめに、京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻について、2000年4月にパブリックヘルス領域の国内初の専門（職）大学院として、基幹11分野および協力講座としての2分野を加えた計13分野により構成され、開設したと紹介があった。また、この領域における教育・研究者養成が急務であることから、博士後期課程も同時に設置されたとのことであった。

つづいて、①根拠に基づく医療（EBM）と疫学、②根拠に基づく診療ガイドライン、③患者の視点・ナラティブ情報、④ “shared decision making” を考えるについて系統立って説明してい

ただいた。

まず、EBM（evidence-based medicine）については人間的集団から疫学的手法で得られた質の高い一般論と貴重な個々の経験の積み重ねを合わせて出来た科学的な根拠を重視して行う医療であると説明があった。

次に、診療ガイドラインについて、「特定の臨床状況において、適切な判断を行うため、臨床家と患者、患者家族を支援する目的で系統的に作成された文書」ということで、以前に比べてエビデンス重視へ移行されており、臨床上の疑問の明確化やエビデンスの検索・評価、推奨（度）の決定により構成されていると説明があった。

診療ガイドラインのカバー範囲としては60～95%の患者であり、全ての患者がスタンダードではないために、複数の治療法から患者と医療者が、治療法の選択肢について情報を共有し、最善の診療方法を選択できるように、ガイドライン作成へ患者代表が参加するようになり、医療者と患者の認識の違いを埋めていこうという動きも出てきていると紹介があった。

最後に、質の高い医療の実現を目指して、患者と医療者の双方を支援するために、診療ガイドラインと関連情報を提供する医療情報サービス Minds（マインズ）について、紹介があり、歯科診療ガイドラインについては、日本歯科医学会が監修のうえ掲載されていると説明があった。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継され、多くの参加者が集まった。特に臨床系教員には参考になることが多く、予定時間が大幅に超過するほど、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する中山先生：平成25年12月25日（水）、水道橋校舎本館第2講義室

### ■平成25年仕事納め

水道橋校舎では、平成25年12月27日（金）午後6時15分より、水道橋校舎本館第1講義室において「平成25年仕事納めの会」を開催した。会場には教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が多数集まり、狩野龍二大学庶務課長の司会のもと、金子 譲理事長ならびに井出吉信学長より一年を締め括る挨拶が述べられた。

千葉病院では、平成25年12月27日（金）午後4時30分より、千葉校舎厚生棟食堂において平成25年仕事納めの会が開催された。会場には教職員、大学院生等が多数集まり、浦田知明千葉病院庶務課長の司会のもと、井出吉信学長、井上 孝千葉病院長より一年を締めくくるご挨拶をいただき、引き続き、櫻井 薫千葉病院副病院長のご発声により、一同乾杯、今年一年の労を互いにねぎらい、会は賑やかに進行した。

市川総合病院では、午後4時30分より講堂において開催された。石井拓男副学長より、市川総合病院教職員に対して挨拶が行われた。続いて、水野利彦事務部長より医学教育等関係業務功労者



金子理事長、井出学長による仕事納め挨拶の会場を埋める教職員：平成25年12月27日（金）、水道橋校舎本館第1講義室



井出学長の挨拶に聴き入る教職員：平成25年12月27日（金）、千葉校舎厚生棟食堂

表彰が披露され、ボランティア団体に感謝状の贈呈が行われた。最後に濱野孝子副病院長（看護部長）および西田次郎市川総合病院長より挨拶が行われた。

### ■平成26年仕事始め

水道橋校舎では、平成26年1月6日（月）午後6時より水道橋校舎本館第1講義室において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、狩野龍二大学庶務課長の司会のもと、金子 譲理事長ならびに井出吉信学長による年頭のご挨拶が行われた。

千葉病院では、平成26年1月6日（月）午前9時より、千葉校舎講堂において平成26年仕事始めの会が開催された。教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が多数出席し、浦田知明千葉病院庶務課長の司会のもと、金子 譲理事長、井出吉信学長、井上 孝千葉病院長から年頭のご挨拶をいただいた。

市川総合病院では、午後4時30分より講堂において開催された。金子 譲理事長、西田次郎市川総合病院長より、市川総合病院教職員に対して年



金子理事長の年頭挨拶を聴く教職員：平成26年1月6日（月）、千葉校舎講堂



挨拶する西田市川総合病院長：平成26年1月6日（月）、市川総合病院講堂

頭の挨拶が行われ、市川総合病院の一年の幕開けになった。

### ■平成25年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成25年11月18日(月)、19日(火)および平成26年1月20日(月)、21日(火)の2回にわたり、水道橋病院において「平成25年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、本学水道橋病院をはじめとする都内の3大学病院が東京都福祉保健局からの委託を受け、都内の医療従事者向けにエイズに関する実践的な知識・技術の習得を目的に行ったものである。水道橋病院では「基礎コース」として実施しており、15回目にあたる今年度は、11月に6名、1月に6名の合計12名が受講した。また、水道橋病院の臨床研修歯科医も講義を受講した。

研修は講義および実習で構成し、水道橋病院の歯科医師、看護師、歯科衛生士等のスタッフの協力・連携のもと実施された。池田正一臨床教授の講義は「HIV感染症の現状および口腔所見と歯科医療」と題し、HIV感染・増殖のメカニズム、治療薬および最新の治療法等について詳しく解説いただいた。また、11月19日(火)は根岸昌功先生(ねぎし内科診療所院長)、1月21日(火)は今村顕史先生(東京都立駒込病院感染症科)を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。また、標準予防策の理念および実践、感染事故を起こした際の対策、医療安全の観点による器具の洗浄・滅菌の実際および感染症患者への歯科治療における注意点などについて、水道橋病院のスタッフが講義を行った。実習は、手洗いおよび含漱の評価、



講演される池田臨床教授：平成25年11月18日(月)、水道橋校舎6階ミーティングルーム

カウンテクニック、マスクの着脱などを行った。また、SNR(スペシャルニーズルーム)において、感染予防対策の実習および実際の診療の見学を行ったのち、総合歯科および口腔外科診療室にて感染予防対策の実例を見学した。受講者は、スタンダードプレコーションの重要性がHIV感染症のみならず、未知の感染症に対しても重要であることを再認識した講習会であった。



講演される今村先生：平成26年1月21日(火)、水道橋校舎6階ミーティングルーム

### ■第129回歯科医学教育セミナー開催

平成26年1月27日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、第129回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「平成26年度以降の臨床実習プログラム」と題し、『移転を踏まえた臨床実習検討会議』の委員長である副学長の戸達也教授と臨床教育委員長の佐藤亨教授より説明があった。

まずはじめに、戸教授より、現在、臨床実習を行っている千葉病院と平成26年度から教育基幹病院になる水道橋病院の歯科用ユニット数について報告があり、平成26年度(第121期生)以降の臨床実習カリキュラム検討の背景について説明があった。平成27年度に予定されている水道橋校舎西棟完成までの実習については移行期という形で新たなTDC型臨床実習を構築していくなかで非常に重要な期間であると説明があった。この移行期における臨床実習の基本コンセプトとしては①引き続き一部分は千葉病院での実習を行う②1学年150名として25名ずつの6つの大班で実習を行うとのことであった。

つぎに佐藤教授より、これらのコンセプトをもとに検討されている、実習内容や評価方法等について、臨床教育委員会の中で協議されている内容

の報告があった。来年度からの実習の大きな変更点としては、実習開始時間を全施設一律として、午前中の出席については朝の8時30分から一斉に取得するとのことであった。また、実習内容についても①水道橋病院登院中の総合歯科による「治療計画立案実習」、②水道橋保存科・補綴科・総合歯科登院中の「補完教育としての外部施設での実習(GCトレーニングセンター)」、③千葉病院補綴科登院中の「在宅訪問診療実習」、④全体集合日における「ホームルームの実施」の4つについて新たに取り組んでいくと説明があった。

つづいて、各科への学生登院人数および日数、学生ローテーション、夏休み等についても説明があり、最後に来年度からの実施に向けての検討事項ということで、①臨床実習必携の構成およびあり方、②臨床実習プログラムとその評価の再構築、③学生管理体制の確認（複数科での実施になる科の出席および学生の引継）、④朝講義・夕方講義および臨床実習で使用する教室の割り振り等について説明があり、各科担当者を中心に連携して、取り組んでいただきたいと協力の依頼があった。

当日はテレビ会議システムで千葉校舎にも中継され、多くの参加者が集まった。質疑応答では基礎系教員側からの臨床講義の参加、臨床教員側からは実習内容の検証ができるような作業部会の設立在案され、大変有意義なセミナーとなった。



説明する佐藤教授：平成26年1月27日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

#### ■平成25年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

平成26年1月27日（月）午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、平成25年度第8回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は医療機器安全管理委員会の小林紀雄委員より

「当病院の医療機器安全管理について」と題して講演が行われた。

初めに医療機器に関する法令の解説がなされ、医療法において(1)医療機器の安全使用のための責任者の設置、(2)従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施、(3)医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検、(4)医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策、が病院には義務付けられており、本研修会の重要性について述べられた。また医療機器に関わる安全管理の基本概念を紹介され、安全性の高い機器とは「整備点検された機器」、「インシデントやトラブルに対して情報が共有されている機器」、「操作方法を熟知した医療従事者が使用する機器」の3条件が満たされているものと定義づけ、その実現のためには「保守点検計画の策定」、「情報の収集」、「研修の実施」が必要であると強調された。

また、保守点検計画が必要な機種として①人工心肺装置及び補助循環装置②人工呼吸器③血液浄化装置④除細動装置⑤閉鎖式保育器⑥診療用高エネルギー放射線発生装置⑦診療用粒子線照射装置⑧診療用放射線放射装置の8機種があると紹介された。医療機器の保守点検は日常点検と定期点検からなっており、日常点検は始業点検、使用中点検、終業点検からなっているとのことであった。医療機器の安全使用のために特に日常点検の重要性を講演では強調されていた。

安全な医療の提供には医療機器の安全使用が必要不可欠であり、その重要性を再確認することができ、病院教職員にとって大変有意義な研修会であった。



講演する小林診療放射線技師長：平成26年1月27日（月）、水道橋校舎本館第2講義室



## 大学院ニュース

### ■第376回大学院セミナー開催

平成25年12月4日(水)午後5時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第376回大学院セミナーが開催された。今回は、スペイン・マドリッドのComplutense(コンプルテンセ)大学医学部、人体解剖・発生学講座主任教授José Francisco Rodríguez-Vázquez先生をお招きして、「Anatomy applied in Implantology」と題した講演を伺った。

José教授は、解剖学講座と数年前より主に顎関節、筋付着部の発生に関する共同研究を行い、数編の共著論文 (<http://www.tdc.ac.jp/dept/anat/publish.html>) を出していたが、東京歯科大学に滞在するのは今回が初めてであった。今回の講演では、主に臨床系大学院生のために、インプラント施術の際に注意すべき解剖学的構造物、そのバリエーションについての研究成果を解説していただいた。その中で、下顎に対しては3つの領域、上顎に対しては2つの領域に分けた局所解剖学的な知識が必須で、現在出版されている解剖学書ではその知識は十分とは言えないこと、そして解剖学は臨床上ターゲットとする局所に対し、その全体像を3次元的に理解する視点が重要であるという事を強調して説かれていた。講演終了後は、活発な臨牀的質疑応答がなされ、臨床面に必要な基礎知識の再構築に大変有意義な講演会であった。



講演されるJosé教授：平成25年12月4日(水)、水道橋校舎本館第2講義室

### ■平成26年度大学院入学試験(Ⅰ期)実施

平成25年12月7日(土)午前9時30分より、水道橋校舎本館において、平成26年度大学院入学試験(Ⅰ期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。

また同日、社会人特別選抜、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの2コース(口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース、がん治療支持療法のための歯科医師養成コース)の試験も行われた。本年度は、志願者30名(一般28名、社会人特別選抜1名、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン1名)が受験し、12月13日(金)正午に合格者の発表が行われた。なお、Ⅱ期は平成26年3月1日(土)に実施される予定である。

### ■がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン4大学合同事業 公開講座「口腔がん治療の均てん化・標準化」開催

平成25年12月8日(日)10時より、秋葉原UDXカンファレンス6Fホールにおいて、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン4大学合同事業 公開講座「口腔がん治療の均てん化・標準化」が開催された。本公開講座は、平成24年度より慶應義塾大学主幹で展開されている「高度がん医療開発を先導する専門家の育成」に参画している慶應義塾大学、東海大学、信州大学、本学の4大学が企画立案して行われた。

まず、特別講演として、群馬大学大学院医学系研究科の西山正彦教授により「がん治療認定医(歯科口腔外科)取得のために」と題した講演が行われ、日本におけるがん治療専門医の現況とこれからの展望についての講演が行われた。

次に、「口腔がん研究、論文作成のためのコツ、情報の集め方」と題し、本学野村武史准教授より講演が行われた。最近のがん研究や新規医療技術を紹介した後、「がん研究のデザイン」として、テーマ、サンプリング、解析、関係論文など形式からキーワードの注意に至るまでの講演が行われた。

昼食休憩後、本学柴原孝彦教授より「口腔がんの診断」と題し、臨床診断、画像診断、病理診断といった診断の順序にそって講演が行われた。口腔がんの診断と治療アルゴリズムなど数値による緻密な講演内容であった。

次に、信州大学医学部歯科口腔外科 栗田 浩教授により、「口腔がんNCCNガイドライン」についての講演が行われ、全米を代表する21のがん

センターで結成されたガイドライン組織(NCCN)の概要と「Cancer of the Oral Cavity」について詳細な説明が行われた。

続いて、東海大学口腔外科 太田嘉英教授より「口腔扁平上皮がんの治療の実際」と題した講演が行われ、頸部郭清術、原発巣切除術などの説明があった。

最後に、慶應義塾大学歯科・口腔外科学教室 河奈裕正准教授より、「口腔非上皮性悪性腫瘍の診断と治療」と題し、原発性、転移性それぞれの悪性骨・軟部腫瘍の標準治療の講演が行われた。

今回の公開講座は、本プランに参画している機関の口腔外科医のみならず、関東圏で口腔外科を有する大学、病院で勤務する若手の口腔外科医を中心に95名の参加があった。来年度以降もこの取り組みは継続して行っていく予定である。



講演する柴原教授：平成25年12月8日（日）、秋葉原UDXカンファレンス6Fホール

### ■第377回大学院セミナー開催

平成25年12月20日（金）午後5時40分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第377回大学院セミナーが国際交流部との共催という形で開催された。今回は、Columbia University College of Dental Medicine, Department of Periodontics の Residentである辻 翔太先生をお招きして、「米国歯周病専門医を目指す－New Yorkという街と米国の歯科事情－」と題した講演を伺った。

辻先生は、大阪大学を2007年に卒業後、Columbia University College of Dental Medicine, Department of Periodonticsに入学する試験を突破するため、開業医で臨床を学ぶ傍ら、TOEFLのスコアを上げるための勉強などを積み重ね、臨床のスキルを上げ、2012年念願の入学を勝ち取った。現在そのカリキュラムは2年目に突入し、様々

な壁にぶつかりながらも多くのことを学んでいる現役の Residentである。今回の講演会では、これまで超えてきたハードルとこれから越えなければならぬハードル、そして将来の展望を東京歯科大学でこれから留学を目指す大学院生、若手医局員向けに話していただいた。さらに講演では、我々が知りえない“up to date”な多くの米国歯科事情を加えていただき、さらには最近のご自分の症例である「上顎へのサイナスリフト後のインプラント手術というケース」における指導医との多くのやり取りなどを包み隠さず紹介していただいた。

聴講した大学院生、若手医局員たちは同年代か少し先輩である辻先生の魅力溢れるプレゼンテーションに、身を乗り出して聞き入っていた。講演終了後は、特に米国留学に関する活発な質疑応答がなされ、若手の活性化という意味で大変有意義な講演会であった。



講演される辻先生：平成25年12月20日（金）、水道橋校舎本館第2講義室

### ■第378回大学院セミナー開催

平成26年1月8日（水）午後6時より、千葉校舎第5教室において、雪の聖母会聖マリア病院矯正歯科部長 森下 格先生を講師にお迎えし、歯科矯正学講座末石研二教授を座長として、第378回大学院セミナーが開催された。今回は、「矯正歯科医としての障がい者支援」と題した講演を伺った。森下先生は“障がい者の矯正歯科治療（東京臨床出版）”を上梓しており、障がい者の治療に造詣の深い先生である。教室には歯科矯正学講座の先生以外にも、多くの大学院生、口腔外科、小児歯科からの参加もあった。

アメリカでは障がい者のことを“Handicapped person”や“Unable person”とは呼ばず“The

challenged person”と呼ぶ事が一般化しており、世界を見わたしても“Normalization”“Universal design”“Inclusion”といった言葉に代表されるように、障がい者を区別するのではなく、一般社会の一員として接する事が浸透している。ところが本邦では、福祉ということばはかわいそうな人に施しを与えるという上から視線が普通となっていて残念なことである。

障がい者には肢体不自由者と知的障がい者があるが、矯正歯科で遭遇するのは主に知的障がい者である。厚生労働大臣が定める先天異常に起因する40疾患の不正咬合に対する矯正歯科治療に保険適用されている(2012年4月1日現在)が、知的障がい者を有する頻度が高い疾患は、Down症候群と頭蓋縫合早期癒合症である。それらの患者に対してどこまで治療ができるか、治療ゴールをどこに設定したら良いか答が見えないのが現状である。講演では脳性麻痺による肢体不自由児とDown症の患者を例に、障がい者に対する取組みについて述べられた。治療自体、診断のための資料採得すら困難と思える症例であったが、森下先生によると、最初から低いレベルに治療ゴールを設定するのではなく、一般健常人と同じように診断をして治療計画を作成し、そこから個別化した、実情に則した治療ゴールを設定することが肝要であると述べられた。講演後、知的レベルの判定方法、実際の治療ゴールの設定方法等、多くの質問がなされたが明快な回答が得られ、有意義なセミナーであった。



講演される森下先生：平成26年1月8日(水)、千葉校舎第5教室

## ■がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「がん患者における摂食・嚥下リハビリテーション」講習会開催

平成26年1月11日(土)14時より、水道橋校舎本館第1講義室において、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「がん患者における摂食・嚥下リハビリテーション」講習会が開催された。本講習会は、平成24年度より慶應義塾大学主幹で展開されている「高度がん医療開発を先導する専門家の育成」の中に本学が設置した「がん治療支持療法のための歯科医師養成コース」の事業の一環として行われた。

まず、千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の石田 瞭准教授から「口腔がん患者における摂食・嚥下リハビリテーション概論」と題し、予防的・回復的、また周術期のリハビリテーションや、リハビリテーションの重要性についての講演が行われた。

次に、千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の大久保真衣講師から「口腔がん患者における摂食・嚥下障害の評価法(観察とスクリーニング検査)」と題した講演が行われ、治療前、術前・術後のヒアリングと観察の重要性、治療による嚥下障害の違いなど、医療現場に直結した内容の講演であった。

続いて、オーラルメディシン・口腔外科学講座の酒井克彦助教より「口腔がん患者における摂食・嚥下障害の評価法(画像診断)」と題し、実際の画像評価の多様な症例を用いて講演が行われた。

千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の山本昌直レジデントからは「口腔がん患者における摂食・嚥下リハビリテーシ



講演する大久保講師：平成26年1月11日(土)14時より、水道橋校舎本館第1講義室

ン」と題し、実際の口腔ケアや訓練の実施方法、姿勢、注意点等について講演があった。

最後に、千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の杉山哲也講師より「摂食・嚥下障害患者への補綴対応」と題した講演が行われ、摂食・嚥下機能改善の他の義歯型補助具、その装着症例、臨床所見などについて講演が行われた。

終了後は質疑応答のほか、個別の質問も多く寄せられ、盛況な講習会となった。

### ■第379回大学院セミナー開催

平成26年1月15日(水)午後5時40分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第379回大学院セミナーが開催された。今回は、岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科教授の竹居孝二先生を講師にお迎えし、「細胞のカタチづくりの分子機構」と題した講演を伺った。

竹居教授は本学卒業後、アメリカエール大学にて長年研究をされ、研究はnatureの表紙を飾る程有名である。その研究成果が認められ、30代後半に岡山大学医学部生化学講座の教授に抜擢され現在に至っている。現在は、東京歯科大学客員教授として毎年研究の指導を頂いており、今回は、その研究の一端を大学院生のために講義頂いた。先生の講演は、まず、組織発生における細胞分化や組織再生における細胞の脱分化・再分化に伴って、細胞はそのカタチをダイナミックに変化させ、分化した細胞もまた、細胞の機能や周囲環境に応じてさらなる形態変化をおこす、と基本的な生物概念から話をはじめられた。そして細胞のカタチづくりには、細胞膜と隣接する細胞内外の分子群との相互作用によって起こるさまざまな細胞現象が関与し、このうち、細胞内小胞輸送と細胞骨格が重要で、その分子メカニズムを概説された。細胞内小胞輸送については、細胞膜からの小胞形成、小胞の輸送、細胞膜への小胞の融合など、膜輸送の基本的プロセスの仕組みを、また、生体膜との相互作用により膜を変形・湾曲させる性質を持つタンパク(BARタンパクファミリー)について解説された。細胞骨格に関しては、アクチン細胞骨格や膜輸送を制御する機能分子が、どのようにして、細胞のカタチを変化させるしくみについて解説された。今回のセミナーを通じて、細胞

の研究を進める上でも多くの示唆を、与えて頂き、講演後も多くの質疑が行われ大変活気の有るセミナーとなった。



講演される竹居教授：平成26年1月15日(水)、水道橋校舎本館第2講義室

### ■がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「顎顔面補綴技工」研修会開催

平成26年1月18日(土)午後1時より、愛歯技工専門学校において、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「顎顔面補綴技工」講習会が開催された。本講習会は、平成24年度より慶應義塾大学主幹で展開されている「高度がん医療開発を先導する専門家の育成」の中に本学が設置した「がん治療支持療法のための歯科医師養成コース」の一環として行われた。

研修会は、田崎雅和大学院研究科長の挨拶で開会し、まず、口腔外科学講座の野村武史准教授から、顎補綴処置に際し必要な解剖と口腔がんをテーマに講演が行われ、基礎的な頭部、口腔の解剖学から、口腔がんの特徴や種類、舌、歯肉など各部位ごとの詳細な講演であった。

口腔がんセンター長の高野伸夫教授からは、「口腔がん外科治療」と題した講演が行われ、口腔の解剖学的範囲から始まり、T、N、Mの分類、Stage分類、悪性腫瘍の治療方針、手術方法について講演が行われた。

次に、有床義歯補綴学講座の石崎 憲講師から、「顎顔面補綴治療の分類・顎顔面欠損補綴病例の紹介」と題した講演が行われ、舌部の欠損、下顎骨欠損、上顎骨欠損など多くの症例を紹介しながら、これら症例にいかに関科技工が深くかかわっているか、さらにデジタル技術の応用の現在など興味深い講演となった。

質疑応答では、「実際に口腔がんに関わる補綴

での技工士の職場は？役割は？」といった熱心な質問が多く寄せられ、盛況な研修会となった。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、がん医療に携わる専門医師のみならず医療従事者の育成も必要となっている。今後もこの取り組みは継続して行っていく予定である。



講演する石崎講師：平成26年1月18日（土）、愛歯技工専門学校

### ■第380回大学院セミナー開催

平成26年1月29日（水）午後5時40分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第380回大学院セミナーが開催された。今回は、大阪大学大学院歯学研究科、口腔病理学教室教授の豊澤 悟先生を講師に迎え、「骨基質蛋白質DMP1の基礎研究から臨床応用へ」と題した講演を伺った。

豊澤教授は臨床検査病理学講座非常勤講師として毎年学生に骨病変について講義を頂いているが、今回は先生の研究テーマの一つを大学院生のために講義して頂いた。先生はまず石灰化には特異的に存在する細胞外基質蛋白質が重要である点から、硬組織に特異的に存在する細胞外基質蛋白質に着目し、蛋白質の分子進化より、それらの特徴を体系的に解析することを試みられ、その中

で、ラット切歯からクロニングされたdentin matrix protein 1（DMP1）が分子進化の観点から硬組織の石灰化に密接に関連する興味深い分子であることに気づかれた。

そしてこのDMP1は、哺乳類から両生類までの様々な動物種の遺伝子クローニングから、DMP1は等電点（pI=4）の強酸性蛋白質で、且つ、リン酸化を受ける多数のコンセンサス配列を有するという特徴が、動物種に関わらず保存されている事を証明された。また、骨組織におけるDMP1の発現分布は、他の骨基質蛋白質とは異なり、骨芽細胞では産生されず、骨の中の骨細胞に特異的に産生される、つまり、DMP1は生体内で負に電荷し、Ca<sup>2+</sup>と高い結合能を有して石灰化に関連すると推測されるとまとめられた。最後に、先生はDMP1の臨床応用研究として、I型コラーゲンにDMP1を添加した骨再生材料の研究開発や、新規の骨代謝マーカーとして血中DMP1測定のためのDMP1-ELISAの研究開発を紹介された。今回は、大学院生のみならず、教職員の参加も多く、骨研究を行う研究者に大きな刺激となった。



講演される豊澤教授：平成26年1月29日（水）、水道橋校舎本館第2講義室

## トピックス

### ■力武春菜さん(1年) 第37回全日本ジュニア障害馬術大会・2013 JOC全日本ジュニアオリンピック大会、ヤングライダー障害飛越競技(中障害B)で第3位に輝く

力武春菜さん(1年)が、JOC全日本ジュニアオリンピック大会・第37回全日本ジュニア障害馬術大会2013(平成25年8月1日(木)から4日(日)、山梨県馬術競技場)における、ヤングライダー障害飛越競技(中障害B)において、Ramexca Z号に乗馬し、全国の乗馬クラブから参加した選手たちを押さえ、53.09秒の記録で第3位に輝いた。力武さんは子供のころより乗馬を始め、現在は佐倉ライディングクラブSTAR HORSES に所属しており、国体への出場を目指している。



Ramexca Z号に騎乗して、高さ130cmの2基の障害を華麗に飛び越える力武さん：平成25年8月4日(日)、山梨県馬術競技場



勝者に贈られるリボン

- (左) 3位 (パステルオレンジ色)  
第37回全日本ジュニア障害馬術大会 標準
- (右) 7位 (パステルパープル色)  
第37回全日本ジュニア障害馬術大会  
スピード&ハンディネス

### ■吉田光孝大学院生 第17回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会で理事長賞を受賞

平成25年11月30日(土)・12月1日(日)に日本歯科大学・生命歯学部にて開催された第17回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会において、口腔インプラント学講座の吉田光孝大学院生が理事長賞を受賞した。受賞演題は「Development of diagnostic method by exosome (エクソソームを用いた診断法の開発)」である。エクソソームは全身の細胞から放出される直径100nm程の小胞であり、全身の体液に含まれている。近年、エクソソームを介した細胞間のコミュニケーションが、様々な疾患と関連している事が判明しつつある。本研究は、がん転移との関連が示唆されているエクソソームを特異的に単離する手法を世界で初めて開発したものである。この革新的な技術により、がんの早期診断・治療への応用が可能となるため高い評価を受けている。今回、総数100演題を超えるなかから20数名よりなる評価委員会により採点がおこなわれ、最高得点での受賞に至った。



矢島安朝教授(右)と受賞した吉田大学院生(左)：平成25年12月1日(日)、日本歯科大学・生命歯学部

### ■平成25年度(第44回)千葉県私学教育功労者表彰を受ける

口腔科学研究センター

田所克己 主任研究技術員

千葉病院事務部医事課

後藤純子 入院係長

千葉病院事務部医事課外来係

安部 かよ子 事務員

千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれる当該表彰において、本学から推薦した口腔科学研究センター田所克己主任研究技術員、千葉病院事務部医事課後藤純子入院係長、同外来係安部かよ子事務員の3名が今年度の表彰者として選ばれた。

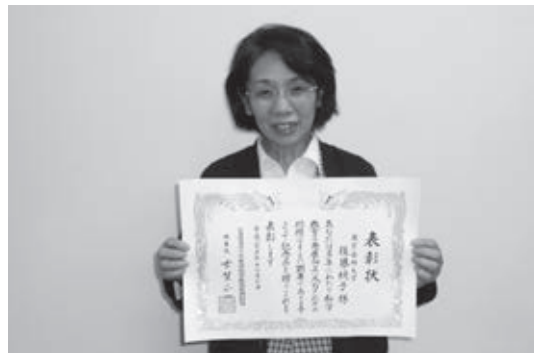
田所氏は、昭和55年より約33年間の長きにわたり、口腔科学研究センターにおける研究機器管理業務に携わり、現在は主任研究技術員として職務を果たしている。教職員からの信頼が厚く、機器取扱の説明・指導等を通じて、数多くの学術論文等研究業績の向上に貢献している。

後藤氏は、昭和52年より大学病院時代から、千葉病院開設を経て、約36年間医事業務に精励してきた。現在は、係長として入院関係の業務を中心に担当し、大学付属病院の運営に大きく貢献している。

安部氏も昭和53年以来、大学病院医事課から千葉病院医事課勤務となり、35年の長きに亘り、医事業務に精励し、多くの教職員から慕われている。



表彰を受けた田所氏：平成25年12月7日（土）



表彰を受けた後藤氏：平成25年12月7日（土）

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。



表彰を受けた安部氏：平成25年12月7日（土）

### ■別所央城助教 第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会で優秀ポスター賞を受賞

平成26年1月23日（木）・24日（金）に札幌コンベンションセンターにて開催された第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会において口腔外科学講座の別所央城助教が「口腔がん検診ナビシステム」と題した示説発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。

いままで口腔外科学講座では、口腔がんにおいて死亡率の減少と機能障害の軽減のために他の臓器同様に早期発見・早期治療が必要と考え、地域住民に対する口腔がんおよび口腔粘膜疾患の認知度を高める啓発活動の一環として対策型(集団)検診を千葉県中心に行ってきた。しかし、一度の対策型(集団)検診では、多くても受診者が200名程度であり検診事業としては十分とはいえなかった。そこで、診療所での任意型(個別)検診を行う事が、早期口腔がんの発見につながり、口腔がんによる死亡率を減少させる一助となることが考えこのシステムを考案した。

口腔は他の臓器と異なり直視直達が可能であることが大きな特徴の一つである。これは歯科治療を受ける機会自体が口腔がんのスクリーニングになり得ることを意味する。そこで、各診療所での診療時に口腔粘膜および舌や頬粘膜へも目を向けてもらい、何らかの病変があった際には「口腔がん検診ナビシステム」を活用してもらうことにより受診者を精査検討し高次医療機関への紹介をサポートするものである。日本国民のがん予防と健康維持・増進のため口腔がん検診事業をさらに推

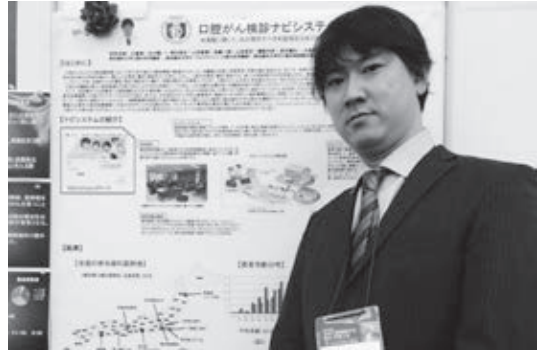
進していきたいと考えている。

この、口腔がん検診ナビシステムは、一般開業歯科医院から個別検診において寄せられた質問に対し東京歯科大学口腔外科講座（口腔外科学会認定専門医）がコントロールセンターとして回答するもので、精査の必要性や高次医療機関への紹介をサポートする役割のほか、チェアサイドで専門

医の意見が聞ける点が特徴である（<https://www.oral-cancer-navi.jp>）。基幹病院まで距離があり本当に受診させるべきか否か迷うような症例の相談に特に有用性があると考えられる。今後、口腔がん対策の新たな手法としてこのシステムを全国に普及を目指す。



学会会場にて受賞する別所助教（左）：平成26年1月24日（金）、札幌コンベンションセンター



受賞した別所助教：平成26年1月24日（金）、札幌コンベンションセンター 受賞ポスター前

## 国際交流部レポート

### ■姉妹校教育交流レポート「延世大学校歯科大学 Hee-Jin Kim教授による講義」

阿部伸一（国際交流部長、解剖学講座・教授）

平成25年12月4日（水）、姉妹校である韓国の延世大学校歯科大学解剖学講座Hee-Jin Kim教授による解剖学の講義が、第2学年に対しすべて英語によって行われた。第2学年は11月までに筋学を終了しており、その延長として臨床との結びつきに焦点をあてた表情筋および咀嚼筋に関する講義であった。講義タイトルを「Cosmetic Anato-

my」として、“審美”という歯科医療の1つの方向



学生からの質問に答えるKim教授：平成25年12月4日（水）、さいかち坂校舎第1講義室



講義中のKim教授：平成25年12月4日（水）、さいかち坂校舎第1講義室



さいかち坂校舎前での集合写真（講義終了後に撮影）：平成25年12月4日（水）



性も加味し、講義に少しでも興味を持ってもらえるように工夫していただいた。学生は熱心に聴講し、講義終了後は3名の学生から英語で質問がなされた。中でも表情筋は進化の過程で、どのような目的で獲得したものであるのか、なぜ人類以外は“表情”があまり出ないのか、という学生の疑問に対する回答は興味深いものであった。この講義の様子は、国際交流部HP (<http://www.tdc.ac.jp/dept/oir/>)にも掲載されている。

### ■Alliance for Oral Health Across Borders —The Alliance Ambassadors Leadership Development Programに参加して—

国際交流部 齋藤 淳(歯周病学講座・教授)  
大学院1年次 青木栄人(歯周病学講座)

平成25年12月4日(水)から6日(金)にわたり、米国・ニューヨーク市において表記プログラムが開催され、金子 譲理事長とともに参加した。Alliance for Oral Health Across Borders (AOHAB)は、2011年に41の大学歯学部、企業やその他の歯科関連の団体が集まり設立された国際非営利・非政府組織で、その理念は口腔健康を通して特に社会的、経済的、政治的に不安定な状態にある世界の国々や地域における平和とwell-beingに貢献するというものである。設立のきっかけは、2006年にパレスチナ系キリスト教徒であるDr. Musa Majali (Al-Quds University)とイスラエルのユダヤ教徒であるDr. Adam Stabholz (Hebrew University)が中東地域の国を越えてインプラント関連シンポジウムを開催したことにある。これを契機とし、歯科医学を通じた交流の輪は世界中に拡大していった。本学は金子理事長がAOHABの理事と

して活動されている。

4日は金子理事長がAOHAB理事会に出席した。各大学の学長クラスや歯科関連企業の役員から構成されている理事会では活発な意見交換がなされ、組織として具体的な行動に移る時期であることが確認された。5日からは、2日間にわたりThe Alliance Ambassadors Leadership Programに青木、齋藤が参加した。本プログラムの目的は、「Principles, processes, and practice of leadership and cross-cultural understanding to help enhance oral health and, through this, contribute toward peace across borders」であり、世界中から70名を超える歯科医療関係者および企業が参加した。プログラムでは国境を越えた相互理解や対話の重要性に関する講義やグループワーク、参加者の組織で取り組んでいる口腔健康に関するアウトリーチ活動についての紹介があった。紛争地域や被災者への歯科医療の提供について知る貴重な機会となったが、AOHABの活動や方向性にこれらの経験や情報をどのように生かしていくかについては様々な議論がなされた。その他リーダーシップおよび異文化理解に関する研修や今後のAlliance siteやAmbassadorの役割についての協議が行われた。

現在、AOHABのメンバーは世界の主要な歯学部を含めて増加しているが、日本からは本学のみである。中国は姉妹校である北京大学や四川大学を含めた3校が加盟しており、その存在感を増している。AOHABへの参加はより広い視点から歯科医学や口腔健康の推進活動の意義を見つめ直す機会となるだけでなく、国際的に活躍できる人材の育成にも寄与すると感じた。今後の本学がAOHABの参加校として国際貢献するためにどの



AOHAB理事会に出席中の金子理事長：平成25年12月4日(水)、Offices of Proskauer Rose, LLC, New York City



The Alliance Ambassadors Leadership Programに参加中の青木大学院生：平成25年12月5日(木)

ような役割をしていくべきか検討が必要である。



理事によるAOHAB憲章改正の討議：平成25年12月6日（金）

### ■延世大学校歯科大学学生来校

平成26年1月7日（火）から23日（木）まで、東京歯科大学における教育プログラム Elective Study 研修のため、姉妹校である延世大学校歯科大学5

年生のBada Choi君が東京歯科大学に滞在した。教務部によって、市川総合病院での研修も含め、臨床系各科でプログラムが組まれ行われた。延世大学ではみられない臨床基礎実習も多くあり、有意義な研修であったとの事である。



121期生（第4学年）における、インプラント科の臨床基礎実習に参加しているBada Choi君（後列左）：水道橋校舎新館臨床基礎実習室

## 学生会ニュース

### ■平成26年武道始め開催

平成26年1月9日（木）午後6時30分より水道橋校舎新館12階において、井出吉信学長、佐藤 亨 学生部長並びに武道系クラブ部長、関係教職員を迎えて日本古来の伝統行事である「平成26年武道始め」が、小池将人君（3年、弓道部主将）の司会により挙行された。

井出学長、佐藤柔道部部長代行が挨拶を述べた後、柔道部、少林寺拳法部、弓道部、剣道部、空手道部の順に演武が披露され今年一年の飛躍を誓った。



武道始めで挨拶をする井出学長：平成26年1月9日（木）、水道橋校舎新館12階



力強い演武を披露する少林寺拳法部の秋山みなみさん（3年）：平成26年1月9日（木）、水道橋校舎新館12階



水道橋新校舎での初めての武道始め：平成26年1月9日（木）、水道橋校舎新館12階

## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

眞木吉信 著 フッ化物をめぐる誤解を解くための12章 医歯薬出版, 2014

井上 孝 著 140字の歯科臨床:タカシのツイッター デンタルダイヤモンド社,2014

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

## 〈大学史料室から〉

### ■<sup>うきかく</sup>烏犀角(サイの角) およびメノウ製スパチュラの寄贈を受ける

平成26年1月29日(水)、栃木県益子町在住の牟田紀一先生(昭和39年卒)から、ご先祖が100年程前にアメリカで購入し持ち帰った烏犀角および、ご尊父栄先生(昭和9年卒)が使用されていたメノウ製スパチュラをご寄贈いただいた。

烏犀角とはインドサイの角のことで、粉末を煎じて飲むと解熱効果があるとされ、古来より中国では漢方の生薬として珍重されてきた。日本には奈良時代に伝来し、江戸時代には麻疹の特効薬として用いられた。漢方界ではなかなか手の入らな

い高貴薬と称されている。寄贈品の角も代々引継がれるなか解熱剤として使用され、削られて3分の1ほどの大きさとなり形もだいぶ変わっている。どれほどの価値があるのか、テレビ番組の「なんでも鑑定団」に出品したところ500万円の値が付いた。サイはワシントン条約で取引が禁止されており、国内での譲渡についても厳しく規制されている。今日では入手は極めて難しく、大変に貴重な資料である。

メノウ製スパチュラはシリケートセメントの練和に用いられた。鋼製スパチュラではシリケートの硬いガラス粒子によって摩耗した鋼の粒子が練和物中に混入するため、硬質のメノウ製スパチュラが最適であった。寄贈品はメノウの練和部分が6センチ、全長は18センチほどあり、今ではあまり見かけない珍しい器具である。

頂戴したこれらの資料は、高価で貴重な資料であり、広く閲覧に供するとともに大切に保存し後世に伝えたい。



烏犀角(サイの角)



メノウ製スパチュラ



金子理事長(左)と牟田先生(右):平成26年1月29日(水)、水道橋校舎本館理事長室

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■平成26年度第Ⅱ期推薦入学選考・第Ⅰ期一般入学試験

歯科衛生士専門学校の平成26年度第Ⅱ期推薦入学選考が、平成25年12月7日(土)に千葉校舎において実施された。募集人員45名のうち若干名を入学させるものであり、今回は高等学校長推薦により県内から13名、社会人特別選抜で2名(県内から1名、他県から1名)の計15名が受験した。選考内容は、高等学校長の推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は午前9時30分から始まり、午後12時00分にはすべてが終了した。

合格の発表については、12月9日(月)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および受験生本人に通知された。

また平成26年度第Ⅰ期一般入学試験が、平成26年1月25日(土)千葉校舎において実施された。今年度の一般入試志願者数は、11名(県内から7名、他県から4名)で志願者数は募集枠を超えるものであった。試験内容は学科試験(国語・英語)と面

接試験であり、午前9時30分から始まり、午後12時30分にはすべてが終了した。そして1月27日(月)には入試選考委員会が開催され、可否の結果が本人宛に郵送された。

第Ⅱ期推薦入学選考は昨年度から実施されたもので、より多くの人を受験出来る機会を設け、より良い学生を確保するために行っている。また一般入試の学科試験は、国語・英語の2科目のみとし受験しやすい環境を整えている。これまでの3回の試験にのべ84名の志願者があった理由としては、昨今の経済状況と就職難から国家資格取得(本校国試合格率100%)を目指す学生の増加と、高い就職率(本校就職率100%)が影響しているものと考えられる。来年度も引き続き学校説明会の充実、積極的な学校訪問の実施、ホームページの刷新、ポスターの製作・配付などを行い、より多くの受験生の確保に努めたいと思う。

歯科衛生士専門学校にとって、レベルの高い歯科衛生士教育を行うのに必要な優秀な学生を継続的に確保するためには、今後も地道な努力が必要であると考えている。

## 2013年の回想&2014年の抱負

### ◆間 奈津子(歯科保存学講座 助教)

昨年、初めて3年生の歯内療法学実習主任を担当しました。学生の理解を深めるには、淡々と教育するだけでは足りません。まずは教員自身が学生と向き合い、コミュニケーションをとることが重要です。しかし彼らの考え方も笑いのツボも驚きの連続でした。全然分かりません。それもそのはずで、気付いたら一回りも歳が離れていたのです。いつまでも若手ではいられないのだと改めて感じました。4月から登院実習も水道橋で始まります。実習での哀しいジェネレーションギャップに負けず、学生の気持ちや個人個人を理解できる教育者であるよう努力したいと思います。

### ◆浅野紘太(千葉病院薬局 薬剤師)

私は2013年に大学を卒業し、同年の4月より千

葉病院の薬剤師として働いています。2013年は座学を離れ、初めて臨床の現場に携わるという緊張感や不安、そして期待でいっぱいであつという間に時間が過ぎていきました。日々の業務では基礎知識の重要性を感じる場面や未経験の場面が多々訪れ、焦りで汗が湧き出てしまうこともよくありました。そんな私でも指導して下さる皆様のおかげで、徐々に慣れてきていますと実感できています。また、様々な個性をお持ちの患者様には日々圧倒されております。2014年は外来・入院患者様や、院内の皆様にも少しでも貢献できるよう、基本を忘れずに何事にも挑戦する精神で日々頑張っていきたいと思います。

### ◆池上健司(物理学研究室 准教授)

2013年で思い出されるのは、副主任として123

期生(現第2学年)を見てきたことです。副主任は大変でしたが、学生たちと直接触れあえて、楽しい仕事でもありました。また、サポート委員の先生方と行った補習も印象深いものでした。ちょっとしたヒントで伸びていく学生がおり、私の微力が役立つところを目の当たりにして、うれしくもありました。2014年の抱負は、もちろん123期全員に進級してもらうことです。

一方、自身の専門である物理学の2013年を回想してみれば、ノーベル物理学賞は「ヒッグス粒子」についてであり、私の専門に近い分野でした。最近、この分野と宇宙論のつながりはさらに強くなり、今後もおもしろくなりそうです。今年はこれらにも注目していきたいと思っています。

#### ◆江橋延江(市川総合病院 副看護部長)

2013年の年明けは「医療安全ポケットマニュアルの改訂」を年度末に仕上げるために時間との戦いでした。ご協力を頂きました皆様のお陰で新年度に間に合い、新しい「医療安全ポケットマニュアル」を作成し皆様にお届けすることができました。ありがとうございます。そして昨年から多職種で構成されたワーキンググループを5つ作り、毎月1回医療安全に向けての活動をしています。様々な職種の方が医療安全に対しての意識を高めて頂ける場になったのではないかと考えています。そして2014年は、皆様にとっての「転ばぬ先の杖」になれるように、そして新しい看護体制「パートナーシップ・ナーシングシステム」導入に向けて頑張りたいと思います。「Challenge」「Innovation」を信条に自分の役割を果たせるように努力しますのでよろしくお願い致します。

#### ◆小沼 心(水道橋病院医事課 係長)

昨年実家のある茨城で開催される、とあるマラソン大会に出場しました。前回の出場は高校生の時。当時と変わらない雰囲気懐かしさを感じるとともに、本格的に走り始めて20ウン年、記録のほどはさておき、大きなけがや病気もなくここまでやってこれたことに改めて感慨深いものを感じました。そして今年40歳、節目の年を迎えます。以前に比べると体力の衰えや疲れやすさを感じるようになってはきましたが、何かと忙しい日々の中で自分一人の時間をもつこと、走ること



は自分にとって心身の健康を維持するには欠かせないものとなっています。今年だけでなく来年もその次も、ずっと健康第一で仕事も家庭も趣味もより一層充実させていきたいと思っています。

#### ◆向後香澄(歯科衛生士専門学校 第2学年)

昨年の10月から臨床実習が始まり、今までの実習や講義を受けるだけの日々とは異なり、わからないことが多く不安と緊張から自分に全く自信を持てずに過ごしていました。しかし三ヶ月経ち、徐々にその環境に慣れてきて余裕を持てるようになったと思います。指示されたことだけではなく次に何を行うのかを考えて予測し、集中して実習に臨むことができるようになってきました。今後は歯科衛生士の学生として、患者へ歯の大切さ、予防歯科の重要性を広めたいと思います。

先生方には、私の書く実習記録を毎日細かくチェックして頂いたり、疑問や悩みの相談などに乗って頂いています。学校では大変なことも多いですが、先生方を始めとして家族、友人など周りの人への感謝を忘れず、今よりもっと時間を上手く使って学びある学校生活を送れる年にしたいと思っています。

#### ◆小林友忠(市川総合病院 会計課長)

2013年、大学機能水道橋移転の記念すべき年。移転に伴う水道橋病院拡充・改修事業の一端を2009年から水道橋病院総務課長として担当していました。4月に市川総合病院へ異動を命ぜられ実際の引越しには立ち会えず少し残念でもありました。本学に奉職して30年を越え、初めての市川勤務。毎日ものがきながら仕事をしていたら“あっ”という間に年を越してしまいました。

2014年、甲午(きのえうま)。「干支」は十干・

十二支とも云われ、10年の変遷を表す“十干”と、12年の過程を示す“十二支”を組み合わせて表しています。2004年の甲申(きのとさる)から始まった一連の時代生命エネルギーが役割を終え、今年は、新たな『甲午』の時代生命エネルギーがこれからの10年を司る最初の年とのこと。東歯も新しい時代へ舵を大きく切りました。私自身もこれに乗り遅れないよう新たな一步を踏み出す一年にしたいと思います。管理職としてステークホルダー(学生・患者)を第一に考えて物事に臨みたいと思います。ただ、自分では若いつもりでも身体はそれなりにガタついてきました。健康にも留意しながら頑張りますので、皆さん、応援よろしく願います。

#### ◆酒井俊輔(大学事務局会計課)

大学移転から4ヶ月ほどが過ぎ、昨年入職の私にはもうそろそろ水道橋で過ごした時間のほうが長くなろうとしております。

水道橋への引越という一大事業を控えた忙しい時期に、こんな手のかかる新人の面倒を見てくださった課内の皆様、とりわけ船山係長には感謝してもしきれません。今年は後輩の事務職員が入ってくるということもあり、先輩として恥ずかしくないような仕事ができればと思っております。

さて、そんなまだまだ未熟者の私ですが一足先にお腹周りに社会人としての貫禄がつき始めてしまったことに焦りを覚えております。昨年は休みの日に本当に一日中休んでしまっていたので、今年はそこをまず改善したいと考えておりますが、走ったり、スポーツをしたりと、何かそういう趣味を見つけられればな、と思います。

#### ◆勢島 典(歯周病学講座 助教)

2013年は、自分の中では大きな変革の年でした。学生時代を含めて15年間、通っていた千葉校舎から、水道橋校舎へと異動となりました。人生初めての電車での通勤、それも満員電車での通勤を体験しました。保存科・補綴科診療室をよりよくするため、補綴科の先生方と様々な話をしたり、昼食を共にしたりする機会があり、しんどい中にも楽しいこともありました。2013年の世相を表す「今年の漢字」は「輪」でしたが、それを実感できた年でした。千葉、水道橋、市川の3病院が

輪になってつながっていくと感じました。2014年は、東京歯科大学がさらに大きな輪を広げられるように貢献できればと思います。

#### ◆田島大地(口腔科学研究センター・大学院事務室 事務員)

口腔科学研究センターの田島です。平成25年4月1日付けで市川総合病院の庶務課人事係から異動となりました。事務室は水道橋校舎本館7階にあり、大学院の事務も兼ねて業務を行っています。

2013年はここ何年かの中で環境が目まぐるしく変わった1年でした。千葉校舎での勤務は約5ヶ月。雰囲気慣れかけたところで、水道橋校舎への移転。業務も慣れない中での移転作業。移転後は叱咤激励のもと業務を行い、あっという間の1年だった気がします。

2014年も叱咤激励の中、頑張っ参りますので、宜しく願い致します。また、水道橋校舎での勤務は駅から近いことは嬉しいのですが、運動不足です。運動不足の解消も目標に掲げ、1年間過ごして行きたいです。

#### ◆辻 将(有床義歯補綴学講座 大学院生)

2012年末より始まった安倍内閣の経済政策により、日本の経済は復活の兆しを見た。その勢いは2013年も留まらず、新年を迎えた現在もその動きは変わっていない。歯科業界の潮流もまた、ゆっくりとこの流れに乗っていくことになる。昨年はそういう意味でまだ準備の年であった。失われた20年の間、歯科でも耐える期間が続いた。我慢しながら蓄えた知識と技術を世の中へ発信できるタイミングが迫っている。大学院4年を修了しなければならない。大きな講座で学び、また数多く、国内外での学会を経験させていただいた。2014年、自ら考え行動し、また考えることで新たな時代を迎えたいと思う。

#### ◆中根 咲(学生 第3学年)

3年生になってから、今までの座学から離れ実習が多くなりました。

歯科医師になるという実感も湧き始め、日々緊張感を持って過ごした1年間でした。

夏休み明けから大学が稲毛から水道橋に移転

し、生活スタイルも大きく変わりました。

広くて緑の多いキャンパスから高層ビルの立ち並ぶ都内への移転には最初は少し戸惑いがありましたが、今は綺麗な校舎で授業を受けていることを誇りに思います。

私は昨年11月、ワークスタディ奨学生に採用され、放課後に図書館でカウンター作業や書籍の整頓などをしています。わからないことだらけの中、図書館の方々の優しいご指導の下、楽しくお仕事をさせていただいています。空いている時間には本を読んだり勉強をすすめたりすることができ、私にとってすごく有意義な時間です。

2013年は、実習・校舎移転・ワークスタディなどたくさんの新しいことに触れた一年でした。2014年も積極的に様々なことに挑戦し、充実した一年にしたいと思います。

#### ◆根木沙枝子 (市川総合病院 オーラルメディシン・口腔外科学講座 レジデント)

私は1年の歯科臨床研修及び、2年目の医科研修を市川総合病院にて行わせていただきました。当講座は総合病院の中にある歯科・口腔外科として、病棟の入院患者の口腔ケアや周術期口腔管理を積極的に行っております。院内では口腔管理に関する勉強会も定期的で開催されており、その必要性について医師・看護師その他コメディカルスタッフの認知度が高いことが特徴です。そのような環境において、歯科医師の立場から専門的な介入・指導を行えるよう、知識を深めていきたいと考えます。私は今後も、ここ市川総合病院の1スタッフとして医療提供に携わっていくと同時に、技術・知識習得や研究発表等の自己研鑽はもちろんのこと、学生を含む後輩たちへの教育の場としてのオーラルメディシン・口腔外科学講座を築き上げていく一員となれたら嬉しく思います。

#### ◆旗手重雅 (法人事務局 人事課 係長)

昨年は本学にとって大きな節目の年でした。大学機能の水道橋移転が実施されたこの時期に、自分は移転による状況変化を間近で体験することができました。本学の長い歴史の中で、大きな変革の現場に立ちあえる機会はそうそうあるものではありません。言ってみれば歴史の目撃者になれたわけで、感慨深いものがあります。そして今年は



変革の結果が本格的に動き出す年になります。自分自身の状況がどうなるのかわかりませんが、先を見据えながらも浮足立たずに目の前の状況に着実に対処していきたいものだと思います。

ところで、個人的な話ですが今年になって一冊の本と出会いました。「人生はワンチャンス」という本です。私は最初のページで、いきなり涙を抑えきれませんでした。人でも本でも物でもよい出会いは人生を豊かにするものだと思います。年の始めによい本との出会いがあった今年は、きっとよい年になると信じているのです。

#### ◆伴 英一郎 (図書課整理係 係長)

「よい年とは、健康な年、気持ちの晴ればれとした年、仕事のよくなる年、毎日に生きる喜びを感じる年、未来ばかりに希望をつないで、いたずらに月日の過ぎてゆくのを待たずしない年のことです」

この格言は、2度ノーベル賞を取ったキュリー夫人の言葉である。では、よい年にするには、どうしたらいいのでしょうか？それは、「生きる喜びを感じながら過ごす」ことだと私は思います。

図書館の整理係として早5年、今年は頭も気持ちも「整理」して仕事に臨んでいきたい！もちろん、健康でいるためには「トレーニング」も欠かせずに!?

#### ◆平井玲奈 (大学事務局教務課)

水道橋校舎新館に勤務して5カ月が経とうとしています。真新しい机・イス、さながら新築の家に引っ越したようなウキウキとした気分の日々を過ごしていますが、時々いらっしゃる先生方からは『だんだん教務課らしくなってきたね。』の一言。…はい、うすうすは気づいています。部屋の中に

だんだんと荷物が積みあがっていることに。まず今年の抱負『気がついたら片づけるようにしていこう!』

新館になって良かったことはまだまだありますが、一番は学生の顔を見る機会が多くなったことです。夕方教室の確認に行くと、多くの学生が勉強しています。心の中で“頑張れ〜”とつぶやきながら教室を後にします。微力ではありますが、目標に向かって頑張っている学生のために、自分には何が出来るかを考え、仕事を頑張ろうと再確認ができる時間です。

個人的に昨年は、母校へ行き現役生と関わったり、十数年前幼稚園生だった子たちとの交流が再開したり、様々な世代の方と触れ合うことができた年になりました。今年もたくさんの出会いや、大学にいる素敵な人達との交流を通じて、人としての幅(注：体の幅ではなく)を広げていこうと思います。お世話になっている皆様に感謝、そして本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

#### ◆山本 圭(学生 第1学年)

2013年、東京オリンピック招致成功！ 消費税8%のおもてなし付き。

「1964年、オリンピックのために甲州街道に植えられた木々が、今ではその落葉で交通障害を引き起こすほどの大木になろうとは…」と父親がつぶやいていました。

2013年、皆様にとってどのような一年であったでしょうか？

東京オリンピック招致以外にも、富士山が世界

遺産に登録されたり、東日本大震災で傷ついた日本にとっては明るいニュースがありました。

僕に関連したことで言えば、今年度の全日本歯科学学生総合体育大会で我が東京歯科大学は第3位に輝きました。

水泳部に入部した僕は、リレーのメンバーに選んで頂きました。嬉しかった反面、初めての競泳大会で大役を担うのは、相当のプレッシャーを感じました。夏休みの合宿では、そのプレッシャーをはねのけるために必死に練習しました。結果は、400mメドレーリレーは優勝！しかし800mフリーリレー(通称8継)は優勝できず準優勝でした。悔しくて涙がでました…。デンタルの最終結果は男子優勝、女子準優勝と輝かしいものでしたが、総合結果は一步及ばず総合準優勝でした。

今年のデンタルは「悔し涙」ではなく「嬉し涙」が流せるように、先生方、先輩方のご指導のもと頑張っていきたいと思います。

2014年、皆様にとって良い年であることをお祈りいたします。



## 人物往来

### ■国内見学者来校 水道橋校舎・水道橋病院

- 東京歯科大学同窓会 東京地域支部連合会(東京地域支部連合会会員100名)  
平成25年12月7日(土)水道橋校舎新館見学
- 太陽歯科衛生士専門学校(学生78名、教員3名)  
平成26年1月24日(金)解剖実習室、水道橋病院見学
- 東京歯科衛生専門学校(学生80名)  
平成26年1月28日(火)解剖実習室、水道橋病院見学

### ■海外出張

- 大金 覚講師(口腔外科学)  
北京大学口腔医学院口腔顎顔面外科学において、頭頸部癌領域の手術技術取得ならびに歯科医学教育研

究のため、平成25年12月1日(日)中国・北京へ出発。帰国は平成26年5月28日(水)の予定。

- 山本 仁教授(口腔超微構造学)  
“Craniofacial Development and Regeneration” ミーティングにおいて講演のため、平成25年12月1日(日)から3日(火)まで韓国・大邱広域市へ出張。
- 武井 泉教授(市病・内科)  
HbA1c Worldwide Meeting at IDF in Melbourneに出席するため、平成25年12月1日(日)から5日(木)までオーストラリア・メルボルンへ出張。
- 齋藤 淳教授、青木栄人大学院生(歯周病学)  
ボストン大学における理事長会議に出席およびAlliance for Oral Health Across Borders (AOHAB) The Alliance Ambassadors Leadership Develop-



- ment Programに参加するため、平成25年12月2日(月)から8日(日)までアメリカ・ボストン、ニューヨークへ出張。
- 白石 建教授(市病・整形外科)  
第41回国頸椎外科学会に出席するため、平成25年12月4日(水)から9日(月)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 原田裕久准教授(市病・外科学)  
Medtronic immersion program in Santa Rosaに参加するため、平成25年12月4日(水)から8日(日)までアメリカ・サンタローザへ出張。
- 笠原正貴講師、岡田玲奈大学院生(歯科麻酔学)  
ミャンマー連邦共和国における医療援助活動(口唇口蓋裂手術)のため平成25年12月21日(土)から29日(日)までミャンマー・ヤンゴンへ出張。
- 石原和幸教授(微生物学)  
Gordon Research Conference “Spirochetes, Biology of” に出席および発表を行うため、平成26年1月18日(土)から25日(土)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 高野正行准教授(口腔外科学)  
Philippine College of Oral and Maxillofacial Surgeons (37th Annual National Conference) にて招待講演を行うため、平成26年1月24日(金)から27日(月)までフィリピン・マニラへ出張。

## 大学日誌

### 平成25年12月

- 2(月) 防火・防災安全自主点検日  
臨床研修管理小部会(千病)
- 3(火) 診療記録・情報システム管理委員会(市病)
- 4(水) 第376回大学院セミナー  
リスクマネージメント部会(千病)  
ICT会議(千病)  
輸血療法委員会(千病)  
臨床検査部運営委員会(千病)  
臨床検査運営委員会(市病)
- 5(木) カルテ指導委員会(千病)  
感染制御委員会(市病)  
ICT委員会(市病)
- 7(土) 大学院入学試験(Ⅰ期)  
歯科衛生士専門学校推薦入学選考(Ⅱ期)
- 9(月) 臨床教育委員会  
歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会  
千葉病院部・科長会(千病)  
個人情報保護委員会(千病)  
医療安全管理委員会(千病)  
感染予防対策委員会(ICC)(千病)  
医局長会(千病)  
医療安全管理委員会(市病)
- 10(火) 臨床教授連絡会  
講座主任教授会  
人事委員会  
歯科衛生士専門学校教員会  
歯科衛生士専門学校3年生卒業試験  
後期定期健康診断(対象:特定業務従事者)(水病)
- 11(水) 1～4年生感染症ワクチン接種  
大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
救急委員会(市病)  
リスクマネージメント部会(水病)  
薬事委員会(水病)  
医薬品安全管理委員会(水病)  
医療機器安全管理委員会(水病)  
臨床検査室委員会(水病)
- 12(木) 歯科衛生士専門学校3年生卒業試験  
業務連絡会(千病)  
高度・先進医療委員会(千病)
- 12(木) 午後のリサイクル(市病)  
手術室運営委員会(市病)  
神田消防署による水道橋病院及びTDCビル全体の立ち入り検査(水病)
- 13(金) ICLS講習会(市病)  
感染予防対策チーム委員会(水病)  
衛生委員会(水病)
- 14(土) 入試ガイダンス
- 16(月) 情報システム管理委員会  
環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日  
医療安全研修会(千病)  
NSTカンファレンス(市病)  
医療事故防止のための相互チェック(水病)  
教職員研修会(水病)
- 17(火) 1～4年生前期追・再試験[～20日]  
一般(Ⅰ期)・センター(Ⅰ期)願書受付開始[～1/28]  
センター試験監督者リスニング講習会[於:日本歯科大学]  
国際交流部運営委員会  
OSCE小部会  
医療連携委員会(千病)  
褥瘡対策委員会(水病)
- 18(水) 歯科衛生士専門学校1年生前期再試験[～25日]  
褥瘡対策委員会(市病)  
糖尿病教室カンファレンス(市病)  
CPC(市病)
- 19(木) 部長会(市病)  
研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会(市病)  
診療録指導委員会(水病)  
医療安全管理委員会(水病)  
感染予防対策委員会(水病)  
個人情報保護委員会(水病)  
科長会(水病)  
教職員研修会(水病)
- 20(金) 予算委員会  
第377回大学院セミナー  
機器等安全自主点検日  
歯科衛生士専門学校2年生前期再試験[～25日]
- 21(土) 患者サロン(市病)

- |   |  |
|---|--|
| <p>24 (火) データ管理者会議 (千病)<br/>カルテ整備委員会 (千病)<br/>診療記録管理委員会 (千病)<br/>医療サービシスに関する検討会 (千病)</p> <p>25 (水) 1～4年生冬期休暇 [～1/7]<br/>学生部 (課) 事務連絡会<br/>第128回歯科医学教育セミナー<br/>中心静脈カテーテル説明会 (市病)</p> <p>26 (木) センター試験監督者打ち合わせ・全体会議<br/>[於: 日本歯科大学]<br/>歯科衛生士専門学校学生冬期休暇 [～1/7]<br/>中心静脈カテーテル説明会 (市病)<br/>管理診療委員会 (市病)<br/>データ管理者会議 (水病)<br/>病院連絡協議会 (水病)<br/>診療録管理委員会 (水病)</p> <p>27 (金) 学長挨拶 (大学・千病・市病・水病)</p> <p>28 (土) 仕事納め</p> <p><b>平成26年1月</b></p> <p>6 (月) 仕事始め・学長年頭挨拶 (大学・千病・市病・水病)<br/>臨床教育委員会<br/>防火・防災安全自主点検日<br/>千葉病院部・科長会 (千病)<br/>個人情報保護委員会 (千病)<br/>医療安全管理委員会 (千病)<br/>感染予防対策委員会 (ICC) (千病)<br/>医局長会 (千病)<br/>臨床研修管理小部会 (千病)<br/>水道橋院長年頭挨拶 (水病)</p> <p>7 (火) 6年生第4回総合学力試験 [～8日]<br/>予算事務打ち合わせ会<br/>中心静脈カテーテル展示説明会 (市病)</p> <p>8 (水) 1～4年生授業再開<br/>歯科衛生士専門学校授業再開<br/>5年生臨床実習プログレス期間説明会<br/>第378回大学院セミナー<br/>リスクマネジメント部会 (千病)<br/>ICT会議 (千病)<br/>医療ガス安全管理委員会 (千病)<br/>中心静脈カテーテル展示説明会 (市病)<br/>リスクマネジメント部会 (水病)<br/>薬事委員会 (水病)<br/>医療機器安全管理委員会 (水病)</p> <p>9 (木) 平成26年武道始め<br/>業務連絡会 (千病)<br/>カルテ指導委員会 (千病)<br/>感染制御委員会 (市病)<br/>ICT委員会 (市病)<br/>手術室運営委員会 (市病)</p> <p>10 (金) 総合講義検討委員会<br/>講座主任教授会<br/>人事委員会<br/>感染予防対策チーム委員会 (水病)</p> <p>14 (火) 1～4年生振替授業 (月曜日分)<br/>大学院入学試験 (Ⅱ期) 願書受付開始<br/>[～2/21]<br/>衛生委員会<br/>歯科衛生士専門学校臨床実習委員会<br/>医療安全研修会 (水病)</p> | <p>15 (水) 基礎教授連絡会<br/>大学院運営委員会<br/>大学院研究科委員会<br/>第379回大学院セミナー<br/>共用試験 OSCE 係員全体説明会<br/>環境清掃日<br/>危険物・危険薬品廃棄処理日<br/>輸血療法委員会 (市病)<br/>感染防止対策合同カンファレンス (市病)<br/>救急委員会 (市病)</p> <p>16 (木) 部長会 (市病)<br/>診療録指導委員会 (水病)<br/>医療安全管理委員会 (水病)<br/>感染予防対策委員会 (水病)<br/>個人情報保護委員会 (水病)<br/>科長会 (水病)</p> <p>17 (金) センター試験係員全体打合せ [於: 日本歯科大学]<br/>国際交流部運営委員会<br/>災害対策実施部会 (市病)</p> <p>18 (土) 大学入試センター試験 [～19日]<br/>患者サロン (市病)</p> <p>20 (月) 機器等安全自主点検日<br/>医療連携委員会 (千病)<br/>医療安全管理委員会 (市病)<br/>薬事委員会 (市病)<br/>東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1日目)<br/>(水病)<br/>手術室管理運営委員会 (水病)</p> <p>21 (火) 教務部 (課) 事務連絡会<br/>地域連携委員会 (市病)<br/>診療記録管理委員会 (市病)<br/>情報システム管理委員会 (市病)<br/>東京都エイズ診療従事者臨床研修(第2日目)<br/>(水病)</p> <p>22 (水) 図書委員会<br/>情報システム管理委員会<br/>歯科衛生士専門学校一般入学試験 (Ⅰ期)<br/>願書受付締切<br/>糖尿病教室 (市病)<br/>糖尿病教室カンファレンス (市病)<br/>褥瘡対策委員会 (市病)<br/>CPC (市病)<br/>データ管理者会議 (水病)<br/>病院連絡協議会 (水病)<br/>診療録管理委員会 (水病)</p> <p>23 (木) 4年生共用試験 CBT・OSCE 事前説明<br/>高度・先進医療委員会 (千病)<br/>管理診療委員会 (市病)</p> <p>24 (金) 倫理委員会<br/>利益相反委員会<br/>大学広報編集委員会</p> <p>25 (土) 歯科衛生士専門学校一般入学試験 (Ⅰ期)</p> <p>27 (月) 第129回歯科医学教育セミナー<br/>歯科衛生士専門学校一般入学試験選考委員会<br/>千葉病院研修会 (千病)<br/>NSTカンファレンス (市病)<br/>医療用ガス安全管理委員会 (水病)<br/>教職員研修会 (水病)</p> <p>28 (火) 一般 (Ⅰ期)・センター (Ⅰ期) 願書受付<br/>締切</p> |
|---|--|

- |        |   |        |                                |
|--------|---|--------|--------------------------------|
| 28 (火) | 教養科目協議会<br>薬事委員会 (千病)<br>データ管理者会議 (千病)<br>カルテ整備委員会 (千病)<br>診療記録管理委員会 (千病) | 29 (水) | 第380回大学院セミナー<br>保険診療検討委員会 (市病) |
| 29 (水) | 1～4年生後期授業終了   | 30 (木) | 医療安全研修会 (水病)                   |
|        |   | 31 (金) | 市病フォーラム委員会 (市病)                |

### 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 王子田啓 椎名裕 中村弘明  
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹  
(平成26年1月現在)



#### 編集後記

水道橋にキャンパスが移って初めて迎える新しい年。

一年の始まりの日に、水道橋本館13階の第一講義室で、金子理事長と井出学長から、年頭のご挨拶がありました。

たとえ時間はかかっても、大きな目標を持って若い人たちの育成を進めることが大学の発展につながる。教育・研究・診療をさらに充実させるための二期工事が始まること。世界を見据えた歯学教育をおこなうために、歯科医学教育の再考と教員の教育能力の向上が必要となってくる。そして何よりも、後に続く立派な後継者の育成が重要となるということ。水道橋移転の完了が、これらの目標をゴールに導くためのスタートになります。高度な医療に対応した技術、その技術を支えるための知識、そして患者さんの心に寄り添う思い遣り。

ここで治療をしたいと、たくさんの人たちが集まってくる、そんな新しい東京歯科大学病院をめざして。

#### 「2013年の回想と2014年に向けての抱負」

その中に、たくさんのきらきらした言葉がありました。

水道橋移転という歴史の目撃者となって感じたこと。ワークスタディー奨学生となって気づいたまわりの人たちの優しさ。自分自身が学生たちと向き合いコミュニケーションを取っていくことの大切さ。生きる喜びを感じながら過ごすことのできる人生。デンタルでの総合準優勝。あと少しのところまで優勝を逃した時に流したくやし涙。今年こそ、うれし涙が流せるように…との誓い。頑張っていて勉強している学生たちに、心の中で「頑張れ～」とつぶやきながら教室をあとにしているひとのやさしさ。…きっと伝わっている。

こんなひとたちの思いが集まって、新しい東京歯科大学の土台を支えていきます。

(広報・公開講座部長・橋本貞充)



雪の日に…。  
白く化粧されたお茶の水溪谷の樹々。  
さいかち坂校舎からの風景が一変します。



大雪の日。  
交通が止まった静かな白い街のなか、神田川に沿った2本の線の上を黄色い電車だけがゆっくりと動いていきます。  
ニュースの中では、降り積もる雪の中で動かなくなった車の列や、道路の寸断によって孤立した村々の映像が流れています。  
立春を過ぎた2月の関東甲信越を覆いつくす真っ白な雪の耐えきれないほどの重さ…。